

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103079
法人名	株式会社ハッピーライフ愛
事業所名	グループホーム春風荘
所在地	香川県高松市円座町1300-2 (電話)087-815-7200

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価決定日	平成20年3月27日

【情報提供票より】(20年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年5月15日
ユニット数	2ユニット	利用定員数計 18人
職員数	16人	常勤 10人, 非常勤 6人, 常勤換算 15.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての2階～3階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000～70,000円	その他の経費(月額)	30,000～40,000円	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 150,000円 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400円	昼食	500円
	夕食	500円	おやつ	0円
	または1日当たり		1,400円	

(4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	7名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	70歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香川県済生会病院、溝口クリニック、やまぐちクリニック、高松大塚歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然木を使用した「和」の雰囲気の生活空間は、家庭にいるような居心地の良さを感じさせ、散歩コースに神社があるなど、周辺環境にも恵まれている。管理者の「目くばり 気くばり 心くばり そして共に楽しい介護」の理念に対する思いは、日常の些細なことも見過ごさず、利用者や家族の視点に立ち、職員と共に追求していく姿勢として現れている。職員研修が活発で、常に前向きな取り組みがなされている。また、整備された書類等や毎月、利用者一人ひとりの家族への手書きの便りは、利用者の様子がよく分かり、安心感が得られている。当ホームは地域との交流を大切にしているホームであり、また、地域に期待されているホームでもある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 事故発生時に報告書を作成していたが、事故を回避する対策が十分でなかったため、その都度協議したり、何も起きていない場合でも危険を予知した時は、協議するよう取り組んでいる。また、職員研修は行っていたが、計画性に欠けていたため、新人研修、職員研修を計画的に行うよう改善している。申し送り簿には日付等の記載もれがないよう確実な伝達を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で評価項目の内容を確認し、意見を出し合ったことにより、日頃の業務内容に対して客観的に評価する機会となった。また、改善が必要と判断した項目について対策を話し合ったことは、意欲の向上にもつながっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議でホームのケア方針、行事等を説明したことにより、地元自治会や老人クラブの参加者に理解を深めてもらえるようになっている。家族や地域の方から、介護保険制度について詳しく知りたいとの要望があり、市から毎回詳しく説明をしてもらうことにより、よく理解できると喜ばれている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、家族宛に便りを出し、日頃の様子を報告している。また、毎月利用者、家族、職員で開催している運営会議は、和やかな雰囲気、家族も意見を言いやすいようである。さらに、家族に対して3か月に1回、アンケートを行っている。対面では言いにくいことや運営会議に参加できない家族の意見を伺うことができている。また、依頼のあった内容については、すぐに検討し対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日頃の挨拶に加え、地域の清掃に参加したり、秋祭り、節分祭りにも参加している。ホームの農園では、近隣の方からアドバイスや協力をしてもらっている。ホーム周辺には神社や老人会のゲートボール場などがあり、散歩をしていると互いに声をかけ合うなど、馴染みの関係になっている。小学校の児童の訪問により、学校に「介護クラブ」が発足したり、近隣の団体や個人のボランティアの希望も増えている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「みんな仲良く、穏やかな暮らし」の理念のもと、地域の中の様々な活動を通じて、その人らしい暮らしを支え、理念をホーム独自で具体化している。	○	神社の参拝や農園を通じて、同年代の友人等との交流を理念の具現化として計画されているので、今後、実践されることを期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝唱和することに加え、管理者は職員に分かりやすいように、日常のケアの中で機会あるごとに、理念に基づいた考え方について個々に話している。	○	現在、利用者一人ひとりに対する目配り、気配りの内容を、職員一人ひとりが利用者個々に毎日意識を持ってケアに取り組む予定であり、その実現に期待したい。
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は隣近所の方にすすんで挨拶したり、地域の祭りや行事に積極的に参加している。ホームの農園には、近隣の方からアドバイスや協力をいただくなど、交流が深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価項目を確認し、今以上に取り組みが必要な項目はどのようにしたらよいか検討している。この作業を通し、各項目の意味や外部評価の意義を理解することができている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、ホーム内の現状を報告することにより、家族や自治会、老人会等より理解が深まったとの声がある。また、市から介護保険について毎回説明があり、よく理解できるようになったと好評である。会を重ねるごとに、様々な意見がいただけるようになっていく。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を機に相談しやすい関係となり、困難事例等についてのアドバイスをいただくなど、サービスの質の向上に活かしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調に変化があれば、すぐに連絡をしている。また、利用者の普段の様子は、担当の職員が書いた手紙と共に、毎月、写真を載せた便りを送付し、報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置だけでなく、利用者や家族、職員で、運営会議を毎月開催している。和やかな雰囲気のため、家族も意見を言いやすいようである。また、3か月に1回はアンケートを取り、意見をいただき、運営に反映させるようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動があった場合、ケアの低下を防ぐため、利用者の状態を詳細に記録した申し送り簿を作成するとともに、便り等で家族へも知らせている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修は計画的に実施している。また、職員個々に研修ファイルを作成して、年度初めに1年間のホーム内外の毎月の研修を計画し、実施している。管理者は、日々のケアを通じて指導することを重要視し、育成している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>香川県介護サービス事業者協会内で、研修会を行っている。相互のホームを訪問する研修に加え、実践の中で必要だと思う研修内容を各ホームから出し合い、自分たちで計画し、共にサービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一部の利用者は、訪問介護、デイサービスや洗濯サービスなどの他事業のサービスを受けており、職員とも馴染みの関係ができています。やむを得ず、急遽入居した場合は、家族と密に連絡を取り合い、不安の軽減に努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と、食事の下ごしらえや盛り付けを行っている。男性職員が朝食の準備を行っている、自然と手伝い始める利用者もいる。また、職員は、寿司や煮物などの作り方は学ぶことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や経験、希望は、機会があるたびに聞くようにしている。また、家族からは入居時や運営会議、普段の面会時に伺い、要望に沿えるよう、カンファレンス時に協議している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族にできる限りカンファレンスへの参加を促し、難しい場合には電話や文書で意見を伺うようにしている。また、担当職員を中心に、全職員の意見やアイデアを反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに定期的に見直しを行っている。また、入居者の心身に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	会社の職員もヘルパー2級の資格を有し、送迎や緊急時の介助を行う場合も安心である。他事業で行っている洗濯代行サービスなどの利用者が入居される場合、馴染みの関係が作られているため、入居時の不安が軽減できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、本人、家族にかかりつけ医の希望を聞いている。送迎は家族が行ったり、職員が行ったりしているが、日常の様子を医師に伝える場合や医師の指示を受ける場合に、必要であれば看護師等が付き添っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はまだ、重度の入居者がいないため、話し合いはできていない。	○	できるだけ早い段階から本人、家族の終末期の希望を伺い、利用者にとって最適なケアの方法を、主治医も含めて対応方針を共有するよう今後の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレは全室にあり、プライバシーに配慮しながら排泄介助を行っている。言葉かけにも十分留意し、記録の保管にも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の希望により、馴染みの美容院や理髪店を継続してもらったり、墓参り、カラオケ、習字や編み物、押し花などの希望があった日には、希望にそえるよう支援をしている。	○	希望があった場合には希望にそえるように支援しているが、毎日の日課には反映できていないので、その日をどのように過ごしたいのか等、一人ひとりのペースを大切に支援に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が好きな利用者には一緒に行ってもらっている。また、食事の内容に合わせて食器を選ぶなど、盛り付けも重視し、見て楽しめる食事や食事中的の会話を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望にそった入浴を支援している。各階に脱衣室から浴槽まで移動するリフトが設置されており、下肢の不安定な方も安心して入浴を楽しむことができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	健康状態を見ながら、ウッドデッキの花の水やりや料理の手伝い、洗濯たたみなど、各人に合った役割が持てるよう支援している。また、俳句や編み物、習字、畑仕事などの気晴らしは、生活歴を参考にして支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺は神社やホームの畑があり、散歩しやすい環境で、気候の良い時は、日常的に外出している。また、買い物やドライブなどにも積極的に出かけ、利用者からも次の目的地の希望が出ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関戸の開きに反応してベルが鳴るため、普段、鍵はかけていない。掃除機を使っていたり入浴介助時など、利用者の動きが分かりにくい場合には、その時のみかける場合があるが、家族には同意を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行っている。利用者の避難方法を一人ひとり絵で表し、職員の目に留まる位置に貼り、日常的に災害に対する予防・避難の意識をもつ取り組みが行われている。	○	近隣の方から災害時のボランティアの申し出があるので、今後、さらに、協力が得られるように、運営推進会議等を利用し、働きかけに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えた献立を基本に、一人ひとりの食事や水分量を把握している。各居室に冷蔵庫があるため、個人持ちの食べ物の摂取状況にも留意し、家族にも協力を得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然木を使用した「和」を感じさせるホーム全体には、家庭的な雰囲気があり、ホールの窓からは周辺の自然をゆったりと眺めることができる。棚や壁に四季を感じさせる飾り物を何気なく飾るなど、工夫が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの家具や思い出の物を自由に持ち込み、自分らしい居室にしている。各部屋には冷蔵庫やトイレが配置され、一部にはシャワールームもあるなど、家族にも使いやすい居室の工夫がされている。		